



The King of Gear

OXFORD DRIVE

(株) アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

このマニュアルには OXFORD DRIVE を最大限楽しむための全てが載っています。もし疑問や質問があれば国内代理店か thekingofgear@gmail.com までお気軽にご連絡ください！

Technical Info: OXFORD DRIVE はスタンダードな 9VDC センターマイナスのパワーサプライで動作します。消費電力は 8mA です。電池は使用できません。デジチェーンのパワーサプライでも動作しますが、不要なノイズを避けるためアイソレートまたは独立したパワーサプライの使用を推奨します。

TIPS

このペダルを使用する上でまず念頭に置くべきことは、"contour"コントロールは"mid"コントロールでは無いことです。contour は実際は高域と中域を調整します。contour が低い設定ではペダルは中域にフォーカスし高域は減衰します。逆に高い場合は中域はスクープされ高域の存在感が増します。このコントロールは一般的なものより遥かに多様な設定を作ることが出来ますが、contour を調整したときは同時に bass と treble も調整をする必要があります。このペダルは最高のトーンを実現するためにしばしば極端なセッティングになることも多いので、ノブをグイッと回すことを恐れないでください。

第二に知るべきは、このペダルは Marshall-In-A-Box タイプのペダルではないことです。サウンドはある意味 Marshall 的であると言えますが、既存のアンプ回路のコピーではなく、またどんなアンプのサウンドにも似ていません。このペダルでしか成し得ない、そして"トランスペアレント"という言葉からは程遠いトーンを持っています。その理由の一つにユニークなフィルタリング回路があります。有名な緑色の OD ペダルのように、トレブルとベースのフリーケンシーはノブがどんなポジションでもヘビーにフィルタリングされています。そして同じくその OD のように、フィルタリングによってバンドサウンドの中でも特異な帯域を支配し、存在感を発揮します。このペダルは特にラウドなバンドサウンドの中で抜群のヌケを誇ります。

この特殊なフィルタリングはギターにだけでなく、シンセサイザーのようなリッチなオーバートーンを持つ楽器とも相性が良いです。複雑な入力に対してもグズグズになることなく、明瞭なトーンを維持できます。

第三は、このペダルは完全にクリーンな Fender スタイルのアンプでも使用を想定していることです。様々なタイプのアンプでも恐らくグッドなサウンドになりますが、クリーンなアンプで使用する時のセッティングはドライブしたアンプとは使えないし、また逆も然りです。特にソリッドステートなアンプ (Jazz Chorus など) では明瞭感を保ちつつ究極にスクープしたトーンを出力できます。そしてオリジナルより更に高い音量でプレイできる (特に LED モードでは) のも Oxford Drive をグレートなペダルにしている要

因の一つです。また gain と bass を下げめにセッティングすれば、歪んだアンプを更にプッシュしてヘビリーなディストーションを作るのに最適なペダルにもなります。

Recommended Settings

・トラディショナルな 90s リードサウンド : ノーマルクリッピング、bass~2 時、contour7 時、treble~2 時、gain3 時。ボリュームと gain は更にプッシュが可能です。

・90s リズムサウンド : LED クリッピング、bass12 時、contour3 時、treble~4 時、gain~1 時。

・クラシックオーバードライブ : ノーマルクリッピング、bass8 時、contour9 時、treble3 時、gain~12 時。

・ローゲインアンビエント/シューゲイズサウンド : ノーマルクリッピング、bass11 時、contour12 時、treble4 時、gain10 時。ディレイとリバーブと組み合わせるとベストです。

・ヘビースクープサウンド : ノーマルクリッピング、bass11 時、contour3 時、treble~2 時、gain3 時。スクープしたサウンドでも抜けを保つためには、contour をアンプの中域の設定とアジャストする必要があります。

・ブルースリードサウンド : LED クリッピング、bass12 時、contour7 時、treble~8 時、gain~2 時。

Signal Placement

一般的なルールとしては、ディストーションはワウ/ファズ/コンプレッサー/ピッチシフター/オーバードライブの後に接続され、ボリューム/モジュレーション/ディレイ/リバーブより前に接続されるのが普通です。とは言うもののこれらに当てはまらない例もたくさんあります。モジュレーションペダルを前と後ろどちらに接続すべきはペダルによります。過激なフェイザーはディストーションよりも前に、マイルドならディストーションの後に繋ぐと良いことが多いです。Oxford Drive の後にボリュームペダルを繋げば全体の音量をコントロールでき、前に繋げば gain/distortion 量を調整できるようになります。巨大で飽和した残響を演出したいなら、ディストーションよりも前にディレイやリバーブを繋ぐ方法もあります。様々なセッティングや接続順を試すのは新しいサウンドを生み出すのに良い方法です。

私達の MINI GLITCH ペダルについては、(特に THRESHOLD モードで) アンビエントなグリッチをしたいなら Oxford Drive の前に MINI GLITCH を繋ぐことを推奨します。ですが MINI GLITCH の後に Oxford

Drive を接続すればよりアグレッシブで不可解なグリッチサウンドを楽しめます。

Controls

- ・ BASS : サウンドの低域を調整します

- ・ CONTOUR : コンツァー（輪郭）コントロールです。mid コントロールではありません。treble と mid フリーケンシーを調整し、ペダル全体の EQ シェイプを変化させます。左に回すとミドルを強調しトレブルを減少させます。右に回すと中域をスクープしトレブルを強調します

- ・ TREBLE : サウンドの高域を調整します。TREBLE のコントロールは CONTOUR のポジションにより大きく変わるので、CONTOUR と共に調整することを推奨します

- ・ GAIN : ディストーション量を調整します。オリジナルの Shred Master の最大ゲインは 4 時になります。オリジナルよりハイゲインな設定も可能です

- ・ VOLUME : ペダルの音量を調整します。通常ユニティボリュームは 12 時ですが、セッティングとクリッピングモードにより異なります。オリジナルよりも遥かに巨大なブーストが可能のため、特に LED クリッピングモードでは音量に注意してください

- ・ クリッピングダイオードスイッチ : スイッチが右のポジションで、スタンダードなダイオードクリッピングになります。圧縮感の強い Shred Master スタイルのディストーションサウンドです。スイッチが左で Marshall Guv'nor からインスパイアされた LED クリッピングモードになります。ダイオードクリッピングに比べてよりオープンかつワイドなドライブサウンドになり、ボリュームも増加します